

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	令和6年度第1回西脇市上下水道事業審議会
開催日時	令和6年11月19日（火） 午後2時00分～3時40分
開催場所	西脇市役所2階 議会委員会室
出席委員の氏名又は人数	長峯委員、岡本委員、時政委員、齋藤委員、臼井委員、藤原廣司委員、藤原悟委員、門上委員、足立委員、小林委員
欠席委員の氏名又は人数	
出席職員の職・氏名又は人数	小倉技監、伊藤部長、岡本課長、芦田課長、内橋課長、藤本補佐、後藤補佐、村上主査、宮崎主査、藤田主任
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	2人
議題又は協議事項	議事 (1) 会議録署名委員の指名 (2) 令和5年度水道事業会計決算報告並びに経営戦略との比較について (3) 令和5年度下水道事業会計決算報告並びに経営戦略との比較について (4) 上下水道事業の取組について
会議の記録（概要）	
発言者	別紙のとおり
問合せ先	西脇市建設水道部経営管理課 TEL 0795-22-3111 FAX 0795-22-8573
委員の署名	
(会長)	長峯 純一 藤原 廣司 藤原 悟

会議の記録（概要）

発言者	
会長	<p>○ 開会</p> <p>本日の審議会の会議録署名委員に藤原廣司委員と藤原悟委員を指名します。</p>
	<p>○ 今回の審議会について事務局から説明</p> <p>○ 令和5年度水道事業会計決算報告並びに経営戦略との比較について事務局から説明</p>
会長	<p>水道ビジョン・経営戦略については、決算ベースで目標数値が設定されております。それについて実態と比較していただき、目標値からずれていないか、ご審議いただきたいと思っております。</p>
委員	<p>令和5年度決算と経営戦略との比較の資本的収支の中で、建設改良費が経営戦略に比べ下がっているが、事業の推進が遅れているということなのですか。これから老朽化が進んでいく中で、早めに修繕等を実施するのがよいのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>主には春日浄水場の解体工事を見合わせていることなどによるものです。現在、春日浄水場用地の売却に向けて準備を進めているところです。浄水場を解体するのか、そのままの状態売却するのかも含め、検討中です。</p>
委員	<p>水道管工事の遅れではないのですね。</p>
事務局	<p>老朽管更新については計画どおりに進んでおります。</p>
委員	<p>資本的収支の内訳の円グラフの中で、不足額補てんという欄がありますが、説明の中で「現金の支出を伴わない減価償却費等によって蓄えられた資金」で補てんしているとありました。減価償却は今後もしていか</p>

事務局	<p>なければならぬもので、補てん財源として使用することで事業を先送りすることになるのではないですか。</p> <p>国庫補助金、企業債を割り振る中で、補てん財源等をどれくらい充てるかを計画し、全体で財源が回るよう予算化しているものです。先々も計画して見込んであるもので、将来的に財源がなくなるということではありません。</p>
会長	<p>今年度の減価償却費がすべて補てん財源に使用されているということではありません。収益的収支と資本的収支の二本立てに分けていますが、収益的収支の減価償却費で数年にかけて積み立てたお金を原資に、毎年度の公共投資を行っていくということです。年度により投資額にばらつきがありますので、収支のバランスが取れるように調整して管理をしているということです。</p>
委員	<p>国庫補助金の額が経営戦略と比較すると減っているので、そういった補助金をもう少しもらえるようにしてはどうですか。減価償却は、決められたとおり10年、15年と計画的に償却していくことが健全化につながるのではないのでしょうか。</p>
事務局	<p>国庫補助金については、補助対象になるような事業を選択して国に申請をしているところです。減価償却費についても、毎年度ルールに沿って費用化しており、数年にかけてプールしたものを原資に投資を行っているものです。</p>
委員	<p>このグラフの見方が難しいのではないですか。不足額補てんという表現が誤解を招きやすいように思います。予算として充てているものを使用したということではないのですか。</p>
事務局	<p>公営企業会計上の処理で、こういう表現となっています。一般的には分かりにくいと思われるので、今</p>

<p>会長</p>	<p>後、わかりやすく補足説明を加えるよう検討します。</p> <p>老朽化した春日浄水場について、使い続けるのであれば更新しなければならないが、将来的な西脇市の人口と必要な水量を考えると廃止しても賄えるということで廃止を決めたと思います。その時期が来たということですね。廃止したのはいつですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>春日浄水場の稼働を停止したのは、令和4年10月です。現在、その跡地をどうするかということで、売却に向けて部内調整を行っているところです。建物を潰して更地にして売却するのか、建物を残したまま売却するのか、いろいろな売却方法があります。公営企業ですので、損失を出して売るとは回避しなければなりません。利益が出るかとなると難しいかも知れませんが、せめて損失がないように売却するにはどういった方法があるか、関係機関等と調整しているところです。</p>
<p>会長</p>	<p>水道ビジョン・経営戦略を策定したときには、昨年度に稼働を停止した後に建物を解体して更地にする費用が、建設改良費に含まれていたということですね。国庫補助金が経営戦略に比べ5,900万円少なくなっていますが、解体工事費がなくなったことが要因ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>解体工事費の財源には、国庫補助金は含まれていません。</p>
<p>会長</p>	<p>経営戦略で8,000万円を見込んでいた国庫補助金が、決算額で2,100万円に減った理由は何ですか。企業債も同様に減っているのです、方針の中身が変更になったということでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>経営戦略改定時には、浄水場に非常用発電機を設置する計画をしていましたが、現在のところ見合わせている状況です。</p>

会長	見合わせている理由としては、実施の必要がなくなったということなのか、タイミングを見ているということですか。
事務局	当時、全国的に発電機の付いていない浄水場を調べて設置するという方針がありました。最近では老朽管の基幹管路の更新に重点が置かれてきているため、タイミングを見ている状況です。
会長	料金回収率について、年度によって数値に凹凸があること、特に令和2年度の数値がかなり低くなっている理由は何ですか。
事務局	令和2年度には、新型コロナウイルス感染症対策として水道料金免除施策を半年間実施したことにより、料金回収率が低くなっています。また、令和4年度には、令和5年1月検針分から家庭用水道料金の基本料金及び従量料金を改定したことに加え、新型コロナウイルス感染症対策及び物価高騰対策として、2か月間の水道料金免除施策を実施したことなどにより、料金回収率が減少しています。
会長	回収すべきなのに回収できなかったというものではなく、料金改定やコロナ感染症減免の影響ですね。
事務局	令和5年度についても料金改定の影響により、経営戦略改定時に比べ年間2,600万円程度の料金収入の減が見られ、今後も同様に減収となります。
会長	令和5年度については、経営戦略改定時には予想していなかった料金改定の影響に因る、ということですね。
委員	料金改定後の投資財政計画の表において、令和7年度に収益的支出の特別損失8,800万円が計上されていますが、こういったものを計画しているのですか。
事務局	春日浄水場廃止に伴う固定資産除却を予定してお

<p>会長</p>	<p>り、経常的な除却でないため特別損失で計上していました。令和4年度に稼働停止したことから、翌年度の令和5年度に前倒しして除却を行ったため、令和7年度にはこの額は生じないこととなります。</p> <p>計画時には令和7年度に除却する予定であったが、前倒しして実施したことで、経営上も早く処理ができてよかったということですね。</p> <p>○ 令和5年度下水道事業会計決算報告並びに経営戦略との比較について事務局から説明</p>
<p>委員</p>	<p>令和5年度決算と経営戦略の比較において、収益的収支の経費が経営戦略の値に比べて789万円増額となっておりますが、この要因は何ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>物価高騰等の影響で動力費、燃料代、負担金等の経費が増額となっており、細々した数字を積み上げていくと700万円の増額となっています。</p>
<p>会長</p>	<p>水道事業は浄水サービスを料金収入で賄っているが、下水道事業では汚水処理を使用料収入で賄い、雨水対策については税金で賄っています。一緒になっているのでわかりにくい面がありますが、会計上分けていないので経費等は全体の額となっています。</p>
<p>委員</p>	<p>収益的収支のその他営業収益の増について、雨水処理負担金の増とあるが、どういう意味ですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>下水道事業では汚水処理と雨水処理を行っており、雨水処理については一般会計からの繰入金が原資となっています。必要経費については、一般会計から繰り入れられるので、その負担金が経営戦略の値よりも増えたということです。言葉が専門用語でわかりにくい部分もあるので、一般用語でわかりやすく表現できるよう検討します。</p>
<p>会長</p>	<p>統合という言葉が何度か出てきていますが、二つの</p>

事務局	<p>施設を一つにするという意味合いなのではないでしょうか、公営企業会計に入っていなかった施設を公営企業会計の中に入れたという統合なのではないでしょうか。</p> <p>下水道事業には、農業集落排水事業と公共下水道事業があります。農業集落排水は集落単位に処理施設を持っており、公共下水道は流域下水道で、6市で終末処理場を持っています。農業集落排水の処理施設を改築・更新するには多額の費用がかかりますので、それを公共下水道へつないでいこうというのが統合となります。会計上は元々、企業会計の中に入っています。</p>
会長	<p>公共下水道につないで一体化したということですね。</p>
委員	<p>経費回収率の推移について、使用料の減などにより計画値を下回っているということですが、使用料が減って回収できていないということですか。使用料が減になるということはよいことであるとも考えられますが、どのような解釈をすればよいのでしょうか。</p>
事務局	<p>使用料収入の減収によって、計画値よりも6パーセント程度悪化しております。</p>
会長	<p>汚水処理費は本来、下水道使用料で賄うべきものです。100%が理想であり、目標値101.4%に対し95%分しか賄えていないという状況です。水道の使用量と下水の排水量は大体並行しているものですが、排水量が減っていることの表れなのではないかとおっしゃっている訳ですね。</p>
事務局	<p>使用料収入が減るということは、当然下水道の使用量も減っていると言えます。</p>
会長	<p>汚水の排水量が減った部分と、人口減少分もあろうかと思えます。一人当たりの排水量が減るということには、よい面と悪い面があると思われれます。</p>

<p>会長</p>	<p>下水道使用料費用内訳を 100円で表したグラフがありますが、パーセントで表した方がわかりやすいように思います。円で表すのであれば、下水道使用料費用が市民一人当たりいくらかかったのか、その内訳としてどういったことに使用したのか、をグラフ化するのはどうでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>ご意見を参考に、来年度から表現の仕方を検討したいと思います。</p> <p>○ 上下水道事業の取組について事務局から説明</p>
<p>委員</p>	<p>高田井第1ゲートについて、パソコン及びスマートフォンで操作ができるということであるが、実際に誰が操作するのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>集中豪雨などの時に、職員がパソコン及びスマートフォンからの転送によりゲート操作を行うものです。警報が鳴ったり、集中豪雨が予想されるといった場合、市内の点検は事前に行っていますが、ゲリラ豪雨など 100mm 近い雨が降る場合もありますので、そういった時には遠隔で操作することが可能となります。</p>
<p>会長</p>	<p>加古川の支流で、どの時点で水門を開いたり閉じたりするのかという管理を地域住民が担っているところがあります。先進的な事例で、国土交通省から賞をもらったこともありましたね。地域住民が管理できないようなところでは、市職員がスマートフォンで遠隔操作を行うということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>各ゲートには水位計を取り付けており、水位が上昇すれば自動で上がるように設定してあります。近年の集中豪雨などにより職員が現地に行って操作することが難しい状況もあります。各職員がスマートフォンにアプリを入れて、アプリから遠隔操作ができるようにしているので、現地に行かなくても、水位が上がらなくても、事前に操作ができるというところで管理を行っています。主要な樋門については、そういった機</p>

会長	<p>能を持たせるように改良を進めています。川から農業用水を取水している施設のポンプ管理についても、いち早くポンプを止めることを遠隔操作でできるようにしており、そういったデジタル化にも取り組んでいるところです。</p> <p>新しい仕組みが導入されてきているのですね。そういったことをうまく広報していくとよいと思います。</p> <p>○ 令和5年8月28日に発生した水道工事事故に伴う水道水の濁りに起因する損害賠償について事務局から説明</p> <p>○ 今後の審議会について事務局から説明</p> <p>(閉会)</p>
----	--

